



V4.0 バージョンアップ° リリースノート



最終更新日 : 2015 年 6 月 26 日

はじめに

今回のバージョンアップに伴い、SkyVisualEditor StudioはV4.0、AppExchangeはV4.0になります。リリースノートでは SkyVisualEditor の主要な新機能や既存機能の機能強化に関する概要情報を提供します。

リリースノートには、今回のバージョンアップが既存環境に与える影響に関する詳細も記載されています。影響があるアップデートについては、**重要な更新** のマークをつけています。ご利用中の画面への影響については十分にご検討いただけますようお願いいたします。尚、より詳細な情報については、リリース時に公開予定のヘルプドキュメントを参照ください。

目次

1.	インライン編集	4
2.	テーブルフィルタ.....	5
3.	データテーブルの絞込条件で、「ログインユーザーID」が利用可能に	6
4.	Studio 画面でオブジェクト、項目の API 参照名を変更可能に	7
5.	重要な更新 Summer'14 (API31.0) への対応.....	8
6.	「見積」オブジェクトへの対応	8
7.	「注文」オブジェクトへの対応	9
8.	「楽観的ロック」(排他制御) のサンプルコード公開.....	9
9.	Studio 画面の操作性向上	10
10.	重要な更新 検索画面の検索条件項目が自由な順に配置可能に	11
11.	検索画面の検索条件項目に日付項目が利用可能に.....	12
12.	検索画面において検索条件値を設定時の演算子を“デフォルト値”に	12
13.	検索画面の範囲指定項目を半角英数字固定に変更	13
14.	テーブルの「ソート」機能を無効化することが可能に.....	13
15.	「カスタムリンク」利用時の画面遷移で Ctrl キー等から別ウィンドウ表示が可能に.....	13
16.	<apex:page>に manifest 属性の対応.....	13
17.	Visualforce ページインポート.....	14
18.	性能改善	15

1. インライン編集

SkyVisualEditorの参照画面で項目をダブルクリックすることで、Salesforceのインライン編集モードのようにデータを編集できるようになります。これにより、ユーザーは編集画面に遷移することなくデータを編集できるため、操作性の向上を実現できます。また画面開発者は、参照画面と編集画面の2画面を作成していたところを、参照画面(インライン編集機能を有効化)のみにすることも可能です。

図 2-1 インライン編集機能を有効化した参照画面

申請番号	TS-00009	申請部署	
申請日	2015/05/15	申請者氏名	佐藤 太郎
件名	備品購入について		
使用目的(購入理由)	業務ソフトウェアの年間保守について継続使用したいため、申請いたします。 なお、ライセンスの保守期間は1年間となっています。		
利用期間(該当あれば)	2015/06/01	～	2016/05/31
購入先(発注先)	株式会社テラスカイ		
購入予定日	2015/05/31		
支払予定日	2015/06/30		
仮払申請の有無	無		
支払方法	振込		

インライン編集機能はページ単位で設定することが可能です。機能を有効化の場合は、Studio 画面 ページプロパティ「インライン編集を有効化」にチェックをします。

図 2-2 Studio 画面でのインライン編集機能の設定

2. テーブルフィルタ

SkyVisualEditor の標準コンポーネントであるテーブル(データテーブル、複数行データテーブル、行動結合テーブル)に対して、デプロイ後の画面上でフィルタをすることができるようになりました。これまでは画面開発者が Studio 画面で固定のフィルタ(絞込条件)を設定できましたが、今後にご利用ユーザー自身で表示されているレコードをフィルタできるようになります。活動履歴などレコード件数が多いテーブルに対して非常に有効です。

原則としてテーブルに文字列表示されている全項目を対象としている機能です。入力した文字列が、画面表示されている項目の何れかに存在するレコードのみ絞り込み表示をします。

図 3-1 テーブルフィルタ機能を有効化した Salesforce 画面



テーブルフィルタ機能は、テーブル毎に有効化/無効化を設定することが可能です。Studio 画面のテーブルコンポーネントプロパティ「テーブル内検索」をチェックします。

図 3-2 Studio 画面でのテーブルフィルタ機能の設定



3. データテーブルの絞込条件で、「ログインユーザーID」が利用可能に

SkyVisualEditor の標準コンポーネントであるデータテーブルの絞込条件として、ログインユーザーID を指定できるようになります。これまでは、固定値での絞込条件や日付項目・日付時間項目を特別値での設定のみ可能でしたが、今回の機能追加により、ログインユーザーのレコードのみを表示できるようになるため、レコードの検索性の向上を実現できます。

設定は、Studio 画面データテーブルプロパティ「絞込条件」にて行います。

図 4 Studio 画面でのログインユーザーID の設定



絞込条件で指定した検索条件は固定値設定となるため、Salesforce 画面上では条件を変更することができませんので運用仕様をご確認ください。

4. Studio 画面でオブジェクト、項目の API 参照名を変更可能に

SkyVisualEditor で作成したページのオブジェクトや項目の API 参照名を自由に変更できるようになりました。

これまででは、例えば、あるオブジェクトのページを作成し、同じフォーマットで別のオブジェクトに対して作成する場合は、1 からページを作成し直す必要がありました。今回の機能追加によりページデザインを再利用できるため、SkyVisualEditor での画面開発の生産性が向上します。



主オブジェクトの主オブジェクト名  アイコン、各項目、テーブルの項目 API 参照名にある  アイコンをクリックすることによって変更することが可能です。本機能は、「Salesforce レイアウト」「自由レイアウト」のみ対応しています。

図 5-1 主オブジェクトの変更



図 5-2 項目の API 参照名の変更



5. **重要な更新** Summer'14 (API31.0) への対応

今回のバージョンアップで、SkyVisualEditor から生成される Visualforce ページ、Apex クラス、および AppExchange パッケージ内の Apex クラスの API バージョンが 31.0 になりました。

この対応により、下記の影響が発生する可能性がありますのでご注意ください。

(1) Apex テストクラスが別クラスに

これまでは SkyVisualEditor が生成する Apex クラス内にテストクラスを含めて出力をしていました。が、今回の対応により、Apex クラスと Apex テストクラスが別に出力されるようになります。そのため、Visualforce ページ、Apex クラス、Apex テストクラスの 3 ファイルを生成することになりました。しかしメリットとして、Apex テストクラスを別にすることにより、Apex 使用量に含まれなくなるため、SkyVisualEditor で作成したページの Apex 使用量を減少させることができます。

(2) 制御項目と連動項目を両方画面に配置する必要がある

Visualforce ページ、Apex クラスの仕様変更により、「項目の連動関係」を設定している項目である「制御項目」と「連動項目」を同じ画面内に配置する必要があります。既存画面で「制御項目」のみ、または「連動項目」のみを画面配置している場合、デプロイエラーが発生するようになりますのでご注意ください。

6. 「見積」オブジェクトへの対応

Salesforce の標準オブジェクト「見積 (Quote)」、「見積品目名 (QuoteLineItem)」、「見積 PDF (QuoteDocument)」に対応しました。

見積オブジェクトの標準機能である、[PDF の作成]ボタン、[商談との同期/非同期]ボタン、[見積に保存]ボタン、見積 PDF オブジェクト表示時の[PDF ファイルプレビュー]機能も利用可能です。

7. 「注文」オブジェクトへの対応

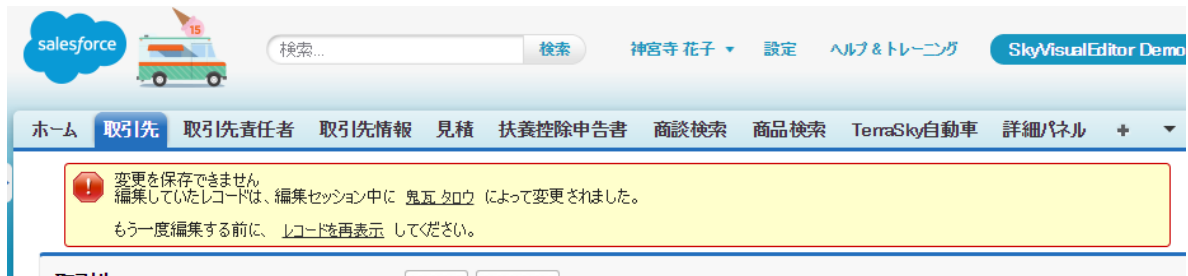
Salesforce の標準オブジェクト「注文（Order）」、「注文商品（OrderItem）」に対応しました。
注文オブジェクトの標準機能である、[注文レコードの有効化/無効化]機能も利用可能です。

8. 「楽観的ロック」（排他制御）のサンプルコード公開

Salesforce では、異なるユーザーが同一レコードを同時編集した場合に、後から保存したレコードで上書きすることができないように楽観的ロック(排他制御)をする仕組みが備わっています。

今回 SkyVisualEditor で作成した画面に、Salesforce の標準ページレイアウトと同様の楽観的ロックの動作をする拡張 Apex クラスのサンプルコードを作成しました。サンプルコードはヘルプドキュメントに公開しますのでご確認ください。

図 9 楽観的ロック発生時のエラー画面

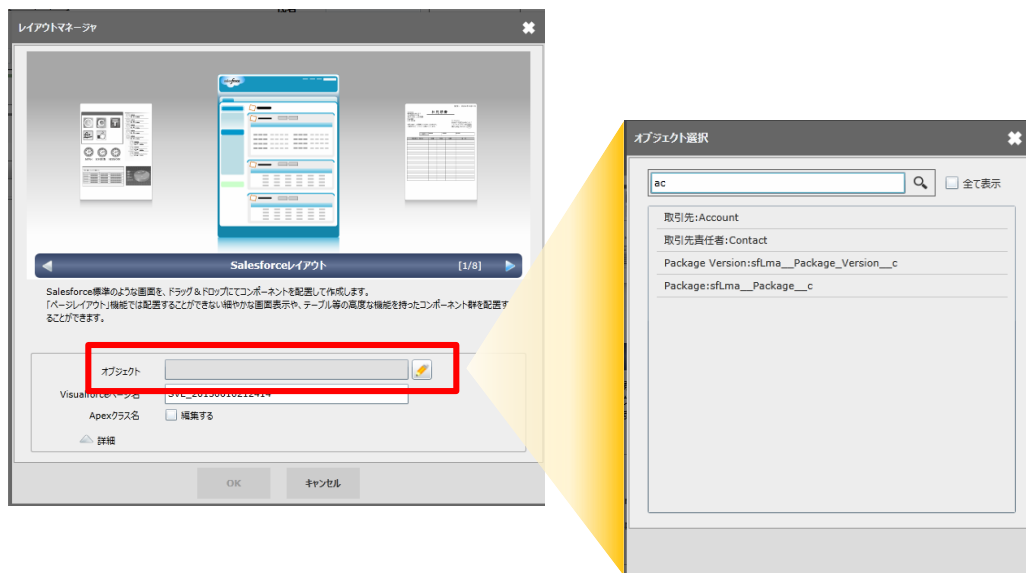


9. Studio 画面の操作性向上

デプロイ後の Salesforce 画面はもちろん、画面を作成する Studio 画面も常に改善をしています。今回のバージョンアップでは特に大きな操作性を向上させる改善を行いました。

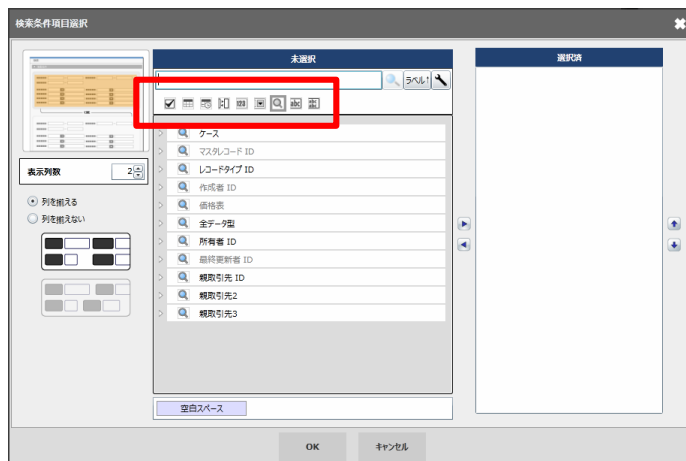
(1) オブジェクト選択を容易に

オブジェクト選択時にフィルタ検索が可能になりました。今までは選択リストの中から探さなければなりませんでした。この改善により非常に容易に選択することができるようになりました。



(2) 検索テンプレート画面での項目選択を容易に

項目を検索する場合は文字列を指定して絞り込んで選択をしていますが、項目の型を指定することによって、指定した型のみを表示できるようになりました。より効率良く利用して頂けるようになります。



10. 重要な更新 検索画面の検索条件項目が自由な順に配置可能に

検索テンプレート画面の検索条件項目の順番を自由に配置することが可能になりました。

今までは、日付項目や数値項目を設定可能な「範囲指定項目」が画面上部に、テキスト項目や数値項目を設定可能な「検索条件項目」はその下に配置されていました。お客様から業務に合わせた項目順で画面配置したいとのご要望を頂きましたので対応しました。

また、今回の対応でより柔軟な表示を可能にするために、標準ページレイアウトのように列を揃える場合と、左に詰めて表示するレイアウトを選択できるようにしました。

【Studio 設定画面】



【検索条件項目の列を揃える】

【検索条件項目の列を揃えない(左詰め)】

既存のレイアウトでは「範囲指定項目」と「条件項目」間での列は揃っていませんでした。今回の対応により、新規作成、編集時には上記のどちらかの表示になるため、表示レイアウトに差分が生じますのでご注意ください。

ただし、既存ページを何も変更せず(画面設定ウィザードを表示せず)に再デプロイした場合は、既存のレイアウトから変更になりません。

11. 検索画面の検索条件項目に日付項目が利用可能に

検索テンプレート画面の検索条件で、日付項目は「範囲指定項目」としてのみ利用可能でしたが、「検索条件項目」としても利用可能になりました。

検索画面の検索条件項目に日付項目が利用可能に

誕生日 2015/06/10 [2015/06/10]

氏名 使用しない

部署 使用しない

電話

誕生日 2015/06/10 ~ 未設定値:

2015 6月

日 月 火 水 木 金 土

31 1 2 3 4 5 6

7 8 9 10 11 12 13

14 15 16 17 18 19 20

21 22 23 24 25 26 27

検索 クリア ※データを操作した

保存

12. 検索画面において検索条件値を設定時の演算子を“デフォルト値”に

デプロイ後の検索テンプレート画面の初期表示において、検索条件項目に値設定時は演算子が「次の文字列と一致する」を自動的に設定する機能があります。しかしお客様から、Studio 画面で設定している「デフォルト値」を設定してほしいとのご要望を頂きましたので対応しました。

06/10]

氏名 次の文字列を含む

部署 使用しない

未設定値:

検索 クリア ※データを操作した場合は保存して

保存

13. 検索画面の範囲指定項目を半角英数字固定に変更

検索テンプレート画面の検索条件で、「範囲指定項目」の値入力欄のIMEモードを半角英数字固定(disabled)にしました。「範囲指定項目」は日付、日付時間、数値項目のみ設定可能なため、全角文字の入力ができないようにIMEモードを使って入力文字を半角英数字固定に設定変更しました。

※IMEモード：利用不可能なブラウザがありますので、詳細はヘルプドキュメントを確認ください。

14. テーブルの「ソート」機能を無効化することが可能に

SkyVisualEditor で配置可能な各テーブル（データテーブル、複数行データテーブル、行動結合テーブル）には「ソート」機能がついており、常に機能は有効化されていました。

ソート機能を利用不可にした画面を作成するために、Studio 画面の設定にて「ソート」機能を無効化することが可能になりました。

15. 「カスタムリンク」利用時の画面遷移で Ctrl キー等から別ウィンドウ表示が可能に

「カスタムリンク」コンポーネントを利用して画面遷移をする場合、Ctrl キー、Shift キーを押した状態でのマウスクリックや、右クリックメニューから別タブに遷移先画面を表示、または別ウィンドウに遷移先画面を表示することができるようになりました。

尚、Name 項目をリンク化した場合の画面遷移は V3.5.3.0 にて機能化済みです。

16. <apex:page>に manifest 属性の対応

HTML5 画面を作成した時にアプリケーションキャッシュ等をするために、マニフェストファイルの指定が可能になりました。

17. Visualforce ページインポート

Salesforce の開発言語である Visualforce でコーディングしたページを、SkyVisualEditor に取り込むことができる機能です。SkyVisualEditor に取り込んだページは、ドラッグ&ドロップの操作でレイアウトの変更や機能追加ができるようになるため、すでに開発済みのページを改修する際の手間を大幅に軽減できます。

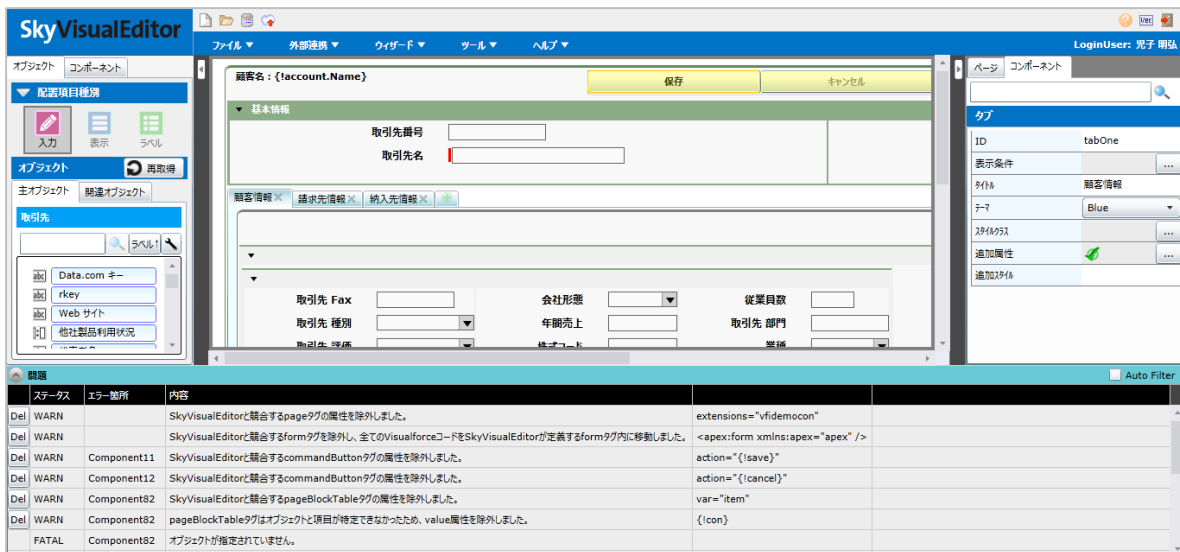
Visualforce ページインポート機能は無効化されています。利用する際は弊社サポートサイトより機能有効化をご申請ください。

サポートサイト：<https://terrasky.secure.force.com/ProductSupport>

<Visualforce ページインポートの利用方法>

Studio 画面メニューエリアの[ファイル]より、[Visualforce ページインポート]を選択します。接続 Salesforce 組織内の Visualforce ページ一覧が表示されますので、SkyVisualEditor に取り込みたいページを選択すると取り込みが完了します。

図 1 Visualforce ページを取り込んだときの Studio 画面



- ※ 取り込む Visualforce ページは `standardController` である必要があります。
- ※ Visualforce ページインポートは、コーディングが伴う可能性が高い機能のため標準サポート対象外になります。
- ※ 取り込みできなかった情報は、エラーログや警告ログとして情報が表示されます。

18.性能改善

(1) JavaScript ライブラリの読み込み制御による速度改善

テーブルのソートやページング等、JavaScript を利用した機能が沢山あります。今までは各機能の利用有無に関わらず、初期画面表示時に JavaScript ライブラリを全て読み込んでいましたが、機能の利用有無に応じで読み込む JavaScript ライブラリを制御するように変更しました。

これにより、画面設定次第によってですが、初期画面表示時の速度向上が期待できるようになります。

(2) 参照専用テーブルによるビューステート削減

各種テーブルコンポーネント（データテーブル、複数行データテーブル、行動結合テーブル）を参照専用を設定することができるようになりました。参照専用にすることによってビューステートの利用サイズを減少させるように改善しました。ビューステートの削減により、画面に表示可能なレコードデータ量の増加や画面の表示速度向上（ネットワーク通信量削減）が期待できます。

SkyVisualEditor V4.0 バージョンアップ リリースノート

株式会社テラスカイ

URL : <http://www.terrasky.co.jp>

E-Mail : support@terrasky.co.jp
